令和元年度 小田原市文化創造活動担い手育成事業

第２２回文化セミナー

文化資源の活用と観光

―２０２０へ向けた小田原へのインバウンド―

文化的な要素に対する知的欲求を満たすことを目的とする「文化観光」。
芸術文化を重要な観光資源と捉え、その活用を考えるセミナーです。
小田原の多彩な文化を外国人観光客の誘致につなげるために、地域文化資源の活用と小田原の将来について考えてみませんか？

入場無料

令和２年１月１９日（日）１４：００～１６：３０

おだわら市民交流センターUMECO１・２会議室

第１部 基調講演

「地域の文化資源を活用した文化観光の取り組み」

講師 太下義之（文化政策研究者、独立行政法人国立美術館理事）

**「文化資源活用による地域・観光産業の活性化
～国の新たな施策・制度～」**

説明 山田亜紀子（観光庁観光地域振興部観光資源課地域資源活用推進室 室長）

第２部 パネルディスカッション

「小田原の文化資源とインバウンド対策」

パネリスト　太下義之・山田亜紀子
コーディネーター　高村完二（小田原市観光協会DMO推進マネージャー）

海外姉妹都市青年交流事業における小田原ちょうちん製作体験（小田原海外市民交流会提供）

【申込方法】

定　員　７０名程度
（申込先着順·空きがあれば当日参加も可）

申　込　１２月１０日（火）よりお電話、メールにて
（件名に「文化セミナー」、本文にお名前、ご連絡先、人数をご記入ください）

【文化政策課】

TEL：0465－33－1706
メール：cultural-create@city.odawara.kanagawa.jp

主催：小田原市　後援：小田原市観光協会　問合せ 文化政策課：０４６５－３３－１７０６（平日９：００～１７：００）

講師プロフィール

太下 義之
（文化政策研究者、独立行政法人国立美術館理事）

専門は文化政策。博士（芸術学）。独立行政法人国立美術館理事、独立行政法人日本芸術文化振興会「日本博」アドバイザー、公益社団法人日展理事、公益財団法人静岡県舞台芸術センター（SPAC）評議員。文化経済学会＜日本＞理事、文化政策学会理事、政策分析ネットワーク共同副代表、デジタルアーカイブ学会評議員。国際日本文化研究センター共同研究員。観光庁「世界に誇れる広域観光周遊ルート検討委員会」委員。東京芸術文化評議会委員（文化政策部会長）、大阪府・2025年万博アカデミック・アンバサダー、オリンピック・パラリンピック文化プログラム静岡県推進委員会副委員長、あいちトリエンナーレのあり方検証委員会委員、沖縄文化活性化・創造発信支援事業（沖縄版アーツカウンシル）アドバイザリーボード委員（～2017.3）。鶴岡市食文化創造都市アドバイザー、アーツカウンシル新潟アドバイザー、石垣市文化観光振興プラン策定委員。東京文化資源会議幹事、著作権保護期間の延長問題を考えるフォーラム発起人、など文化政策関連の委員を多数兼務。単著『アーツカウンシル』（水曜社）。

山田 亜紀子
（観光庁観光地域振興部観光資源課地域資源活用推進室長）

1998年文部省入省。初等中等教育局、外務省国際文化交流部、科学技術･学術政策局、千葉市教育委員会(生涯学習振興課･総務課)、北海道大学、大臣官房政策課、国立教育政策研究所等を経て、2018年8月より現職。現在は、文化財の観光活用に関する文化庁との連携や、地域観光資源の多言語解説の整備、テーマ別観光の推進などを通じて地域観光資源の磨き上げの推進を図っている。

高村 完二（小田原市観光協会DMO推進マネージャー）

都内広告代理店やロボットベンチャー企業の広告部門勤務、公募を経て、一般社団法人小田原市観光協会(日本版DMOの第1弾に登録)が平成30年4月に設立したDMO推進マネージャーに就任。株式会社小田原ツーリズム代表取締役兼務。

～外国人に教えてあげたい小田原～

伝統工芸(木象嵌)
箱根･小田原の木工と聞けば、寄木細工と答える人がほとんどだと思いますが、もう一つ木象嵌という細工があります。寄木は直線的な幾何学横様ですが、木象嵌は別名木画とも呼ばれるほど絵画的なものです。

食文化(梅干し)
小田原にはひものやかまぼこ、塩辛といった海にまつわる多彩な食文化がありますが、梅干しも小田原ならではの食です。
小田原に梅が急速に増加したのは、日露戦争後の明治40年(1907年)以降で、小田原城付近の小峰、谷津、下曽我などで栽培されました。

歴史的建造物(老欅荘)
明治以降政財界人が構えた別邸や小田原のなりわいを継承する歴史的建造物が、多く残っています。
昭和10年頃から茶の湯を始めて、茶人としても活躍した松永安左ヱ門(耳庵)は、昭和17年頃から別荘(老欅荘)の造営を始め、戦後昭和21年12月に移り住みました。